

Environment

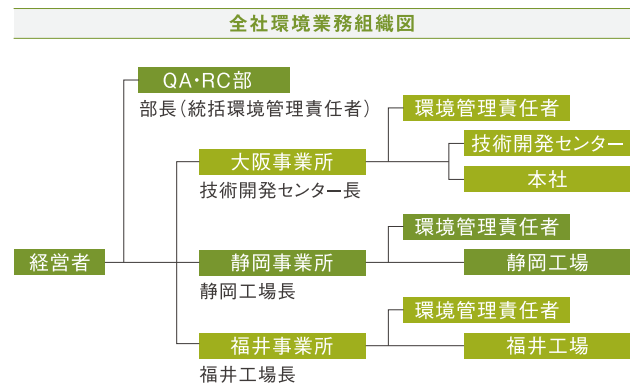
環境への取り組み

関連するSDGs

環境マネジメント体制

当社は、品質マネジメントシステムとして国際規格であるISO 14001の認証を大阪事業所、静岡事業所および福井事業所で取得しています。当社の企業理念、行動指針、全社方針(レスポンシブル・ケア方針、環境方針)に基づき、環境保全についての基本方針、および活動の基本事項を定めることにより環境保全に関する活動を総合的かつ計画的に推進し、合理的かつ円滑な事業所運営を行っています。

● 環境マネジメント体制図



環境方針

当社は、事業活動のあらゆる段階において、継続的な環境汚染の防止とともに環境保護に取り組み、全てのステークホルダーとの信頼関係を構築し、持続可能な社会づくりを目指します。

- 事業活動に関連する法律、同意するその他の要求事項や協定等を順守します。
- 製品の開発から廃棄に至る各段階において、環境影響を認識し、環境汚染の防止を推進し、継続的な改善活動に取り組みます。
- 環境保護活動として、省エネルギー・省資源に取り組むとともに、温室効果ガスの発生を抑制し、資源の再利用、再活用を推進し、地球環境と事業活動との調和を図ります。
- 適切な化学物質の取り扱いや事業活動の改善による環境負荷物質の低減、廃棄物の削減を図ります。
- この環境方針を達成するために環境目標を設定・レビューし、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- この環境方針は、全社員に伝達し理解させるとともに、必要に応じて利害関係者へ公表します。

レスポンシブル・ケア方針

レスポンシブル・ケア活動とは、化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動です。当社では、化学物質を製造し、取り扱う事業者として、自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、廃棄に至る全ての過程において「環境・安全」を確保することを経営方針において公約し、安全・健康・環境面の対策を実行し改善を図っていく「レスポンシブル・ケア方針」を2005年4月1日に制定しました。持続可能な社会づくりを目指し、現在では「品質」を加えた、「環境」「品質」「安全」を3つの柱として事業活動を行っています。

- 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクルにわたって、環境保護と環境負荷の軽減に努めます。
- 「安全第一」を基本とし、無事故、無災害を目指し、安全操業に努め、社員と社会の安全を確保します。
- 取り扱う化学物質の安全性を確認し、社員、物流関係者、顧客など全てのステークホルダーへの安全・環境・健康に配慮します。
- 顧客が満足し、信頼される品質の製品とサービスを安定的に提供します。
- 安全、環境、品質に関する法律および当社が同意するその他の要求事項を順守するとともに、社会とのコミュニケーションを図り、信頼の向上に努めます。

マテリアルフロー

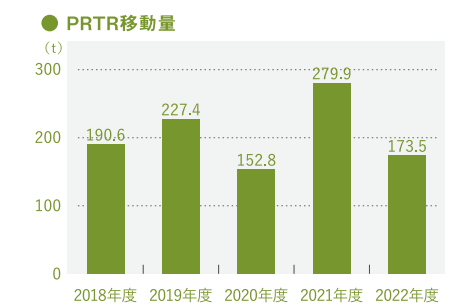
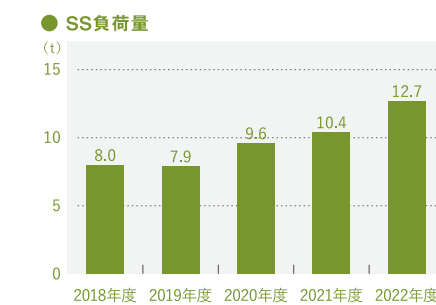
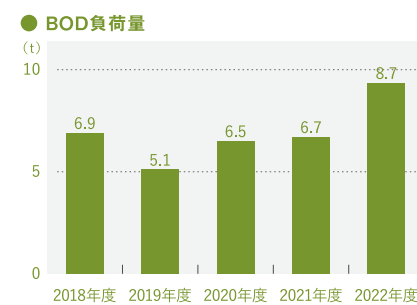
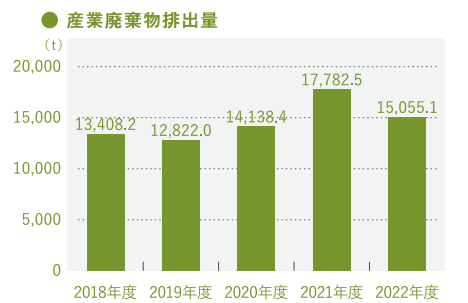
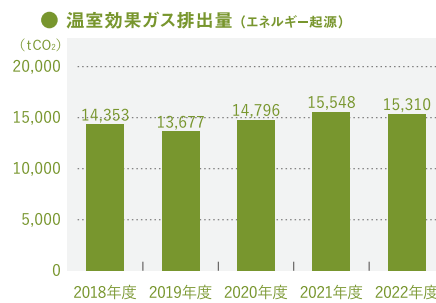
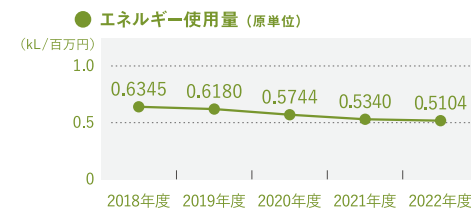
当社の2022年のマテリアルフローは以下になります。エネルギー、用水、原料等のインプットおよび環境排出物、製品等のアウトプットを示しています。

INPUT

エネルギー	電気	18,567千 kWh
	都市ガス	280千 m ³
	A重油	2,097 kL
	LPG	329 t
	原油換算	7,549 kL
用水	527.4千 m ³	
原料		

OUTPUT

水域排出量	排水量	592.1千 m ³
	BOD総量	8.7 t
	SS総量	12.7 t
PRTR物質	水域	0.03 t
	下水	0.19 t
大気排出量	CO ₂ 排出量	23,960 tCO ₂
	PRTR物質	大気 12.0 t
産業廃棄物	総量	15,055.1 t
	内 社外排出量	2,611.2 t
	内 社内処分量	12,443.9 t
PRTR物質	事業所外移動量	173.5 t
製品		



VOICEインタビュー



静岡工場
管理課
大森 裕史

環境管理について

2023年度より生産部門から環境管理の部門に配属となりました。環境管理部門では排水や廃棄物の処理、工場用水の管理など工場の入口と出口を管理する立場となります。工場の円滑な運営や環境保護に対する意識を念頭に置き、業務に取り組んでおります。

環境関連詳細データ

全社

項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
エネルギー使用量	原油換算	kL	6,712	6,553	7,158	7,732	7,549
	電力使用量	千kwh	16,160	15,507	16,962	18,263	18,567
	原単位	kL/百万円	0.6345	0.6180	0.5744	0.5340	0.5104
温室効果ガス排出量	エネルギー起源	tCO ₂	14,353	13,677	14,796	15,548	15,310
産業廃棄物排出量	廃棄物総量	t	13,408.2	12,822.0	14,138.4	17,782.5	15,055.1
水環境	水使用料	千m ³	461	449	472	479	527
	排出量	千m ³	453	575	582	569	592
	BOD負荷量	t	6.9	5.1	6.5	6.7	8.7
	SS負荷量	t	8.0	7.9	9.6	10.4	12.7
PRTR物質排出量	移動量	t	190.6	227.4	152.8	279.9	173.5
	水域排出量	t	0.02	0.06	0.10	0.04	0.03
	大気排出量	t	20.5	21.3	20.8	9.0	12.0

事業所別

エネルギー使用量

各事業所	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大阪事業所(東京含む)	原油換算	kL	1,088	1,081	1,034	1,170	1,192
	電力消費量	千kwh	2,944	2,901	2,804	3,173	3,435
静岡工場	原油換算	kL	4,518	4,380	4,870	5,226	4,816
	電力消費量	千kwh	10,108	9,590	10,627	11,360	10,696
福井工場	原油換算	kL	1,106	1,092	1,254	1,336	1,541
	電力消費量	千kwh	3,108	3,016	3,531	3,730	4,436

温室効果ガス排出量

各事業所	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大阪事業所(東京含む)	エネルギー起源	tCO ₂	1,955	1,703	1,593	1,871	1,666
静岡工場	エネルギー起源	tCO ₂	10,179	9,729	10,549	11,050	10,541
福井工場	エネルギー起源	tCO ₂	2,219	2,245	2,654	2,627	3,103

定義・算定方法

CO₂排出量・エネルギー使用量(原油換算)

CO₂排出量・エネルギー使用量の算出は、全ての事業活動に伴うエネルギー(燃料・電力等)を対象とした。エネルギー使用量は「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」(省エネ法)に基づき原油換算値として算出した。CO₂排出量は、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルVer.4.7」(環境省・経済産業省2021年1月)および「省エネ法」に基づいて算出した。当社では、CO₂以外に「地球温暖化対策の推進に関する法律」(温対法)の報告要件に該当するGHGガス(CH₄、N₂O、HFC、PFC、SF₆、NF₃)の排出はない。

廃棄物発生量

廃棄物等のデータ算出方法は、「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン2002年度版」(環境省)に準拠した。

化学物質排出量

「化学物質排出把握管理促進法」(化管法)PRTR制度に基づく届出対象物質とし、算定方法は「PRTR排出量等算出マニュアル第4.2版」(経済産業省・環境省)に準拠した。

産業廃棄物排出量

各事業所	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大阪事業所	廃棄物総量	t	640.4	629.9	667.5	851.8	995.7
静岡工場	廃棄物総量	t	10,922.0	10,880.7	11,904.2	15,143.2	11,721.2
福井工場	廃棄物総量	t	1,845.8	1,311.4	1,566.6	1,787.5	2,338.2

水環境

各事業所	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大阪事業所	水使用量	千m ³	72	64	68	67	76
	排出量	千m ³	29	29	25	29	35
	BOD負荷量	t	2.5	1.2	0.7	0.5	1.2
	SS負荷量	t	1.8	0.9	1.1	1.4	2.3
静岡工場	水使用量	千m ³	339	321	327	345	375
	排出量	千m ³	390	503	501	498	512
	BOD負荷量	t	2.9	3.2	3.8	5.7	4.2
	SS負荷量	t	6.1	5.3	6.2	8.3	6.3
福井工場	水使用量	千m ³	50	65	78	67	76
	排出量	千m ³	34	44	57	43	45
	BOD負荷量	t	1.4	0.7	2.0	0.5	3.3
	SS負荷量	t	0.2	1.7	2.3	0.8	4.2

PRTR物質排出量

各事業所	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大阪事業所	移動量	t	44.3	43.5	52.0	54.4	71.5
	水域排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	大気排出量	t	2.9	3.7	2.1	2.4	3.4
静岡工場	移動量	t	120.2	182.4	100.8	225.5	102.0
	水域排出量	t	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
	大気排出量	t	17.4	18.4	18.3	6.3	8.4
福井工場	移動量	t	26.1	1.5	0.0	0.0	0.0
	水域排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	大気排出量	t	0.2	0.2	0.3	0.3	0.1

主なPRTR法指定化学物質の状況(上位5物質)

政令指定番号	物質名称	項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
13	アセトニトリル	移動量	t	50.8	49.0	42.0	53.0	24.0
		水域排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		大気排出量	t	5.7	4.8	6.3	3.7	5.7
125	クロロベンゼン	移動量	t	16.7	0.0	16.0	0.0	0.0
		水域排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		大気排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
150	1,4-ジオキサン	移動量	t	0.1	0.0	0.0	1.5	0.0
		水域排出量	t	0.02	0.05	0.06	0.04	0.03
		大気排出量	tt	5.0	7.3	8.0	4.8	3.3
186	ジクロロメタン(塩化メチレン)	移動量	t	27.2	20.0	28.0	15.8	21.1
		水域排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		大気排出量	t	9.6	9.0	6.1	0.1	2.4
300	トルエン	移動量	t	92.2	154.0	60.0	204.0	121.9
		水域排出量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		大気排出量	t	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3